

★元内閣法制局長官の阪田雅裕氏は、国会内での「超党派議員と市民の勉強会」(20日)で、集团的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更によって、「9条はなくなる」と強調しました。これまでの政府の立場からしても、9条は有名無実になってしまつたという警告です。

と な み

# 旗 赤 読者のひろば

日本共産党  
砺波市委員会  
西尾 英宣  
千代180  
Tel 33-6118

## 【2月砺波市議会定例会はじまる】

### 子ども医療費助成拡大 など

二十七日、二月砺波市議会定例会が開会。子育て世帯の支援拡大

市長は施政方針及び提案理由説明のなかで「子育て世帯の支援につきましては、本年十月から通院に係る医療費の助成を中学三年生まで拡大するほか、新年度から市民税非課税世帯の保育料及び幼稚園授業料を無償化するなど一層の支援に努めてまいります」と述べました。

院も通院も完全無料が実現します。先週、予算概要で発表されて以来、歓迎の声がきかれます。

### 保育所・幼稚園のエアコン

計画を前倒しし、新年度にすべての保育所・幼稚園の保育室でエアコンが設置完了予定。この後、小中学校の普通教室へのエアコン設置をすすめるよう期待します。

### 小中学校の建物の耐震化

すべての小中学校の建物の耐震化について平成二十六年末までに完了させるとしています。耐震改修は小中学校を

最優先ですすめられてきました。新年度、鷹栖・東山見保育所の耐震診断に着手。引き続き、地域の公民館など公の施設の耐震改修が早期にすすめられるよう期待します。

・・・年金の引き下げや、四月からの消費税増税予定など負担が増えるなか今回の議会は「市として市民の暮らしをどのように応援するか」が問われる議会かと思えます。

## 【国の「農政改革」あまりに拙速】

### 家族農業支える視点必要

(裏面きんこの日誌参照) TPP閣僚合合が始まる二十日、富山市内でのシンポジウム「国の『農政改革』と富山の農業について考える」に、会場いっぱいの一八〇人が参加。日本共産党の紙智子参

議院議員、JA富山中央会の穴田甚朗会長、県農業会議の久保博副会長、農民運動全国連合会の吉川利明事務局次長が、パネリストを務めました。

紙氏は、安倍政権がすすめる「農政改革」は、TPPを前提にした農業の大規模化、農地利用の効率化・高度化、競争力ある農業経営の育成が目的と指摘。非常に拙速で多くの農業者から懸念が出されており、政府や国会議員に地域から声を積み



発言する紙智子参院議員と各パネリスト

ます。久保氏は、農地の集積がすすめられようとしているが、日本の農業は家族農業が主体だとのべ、農地を守るためにも農業委員会が必要だとのべました。

吉川氏は、国に農地を集めさせて企業に渡すことが財界の狙いだと指摘しました。

**砺波市議会2月定例会日程**

3月10(月)・11(火)10時～代表一般質問  
 12日(水)10時～産業建設常任委員会  
 13日(木)10時～民生病院常任委員会  
 14日(金)10時～総務文教常任委員会  
 19日(水)14時～本会議 議案採決 閉会

★本会議(議場)・常任委員会(小ホール)は入口で受付簿に氏名、住所などを記入して、たれても帰席できます。

★安倍晋三内閣は原発を「重要なベースロード電源」と位置づける、「エネルギー基本計画案」を決定しました。原発事故への国民の不安と「原発ゼロ」への強い願いを踏みにじるものです。原発依存にこだわり続ける安倍内閣に事故の反省はないのか。「原発ゼロ」を求める国民の声を高めることが急務です。

【ただのつぶやき】

21日 春闘砺波地区集会

連帯の挨拶をさせていただきました。この間、原発、TPP、消費税など一致点での共同が広がっています。「無党派」とよばれる人たちが、「保守」といわれる人たちが自発的に参加していることは、これまでになかったこと。日本共産党は、どの分野でも一致点を大切に、みなさんと一緒にがんばります。

22日 シンポジウム「国の『農政改革』と富山の農業について考える」

(一面・下記 きんごの日誌参照) 紙智子議員の祖父は富山県のご出身ということもあり、日程を調整。前日には、ひづめ弘子県議らとともに県農林水産部などを訪ね懇談されました。

23日 県農民連定期大会

前日のシンポジウムにつき、農民連の吉川事務局次長が講演。今回のよう

な農政改革をしようと思えば、本当はもっと時間をかけなければ現場が対応出来ない。農水省も当初、新年度予算は前年並みと考えていたそうですから、

いまだ詳細は誰もわからない!? はっきりしているのはコメの直接支払交付金が半減すること。飼料用米にシフトなどと言われますが、富山県では現実味の無い話です。

25日 がんばれ受験生

富山大学入試を終えた受験生に、関心事を問うシール投票、学費値下げの署名、宣伝に参加。「学費が高いのは日本だけとは初めて知った」「親も学費が大変と言ってた」など。(私は授業料年額十四万四千円、その時の三年生が九万六千円、四年生が三万六千円。一番うなぎ昇りの時代でした。今は五十万円以上!)

TPP「漂流」か?

TPP閣僚会合は「大筋合意」に至らず、二十五日、共同宣言を発表し閉幕。

「大筋合意」先送りは、日本での「国益と五品目守れ」の世論と運動や、TPP交渉参加国の民衆の運動の成果、国際的に連帯した運動の結果といえます。

TPP交渉は長期化して「漂流」する可能性があります(党の立場上「TPP反対」とは言えず、地元選挙民の手前「TPP推進」とも言えないので、「漂流」を期待する与党議員もいるとききます。いい加減なものですね)。

しかし、甘利大臣は、今後の日米協議、TPP交渉の交渉でも、農産五項目の関税で譲歩する姿勢を示唆しており、事態が急展開する危険も否定できません。TPP反対運動は最大の山場を迎えた感じですよ。

27日 市議会本会議を傍聴 (私の公約にも掲げている) 子ども医療費助成拡大など、良いことは大賛成!

(何でもお気軽にご連絡・ご相談ください・多田携帯 090-3369-8216)

【続 きんごの日誌】

22日 日本共産党富山県委員会が主催する農業シンポジウム「国の『農政改革』と富山県の農業を考える」に、地元大門の農業仲間といっしょに参加しました

昨年打ち出された国の「農政改革」が、水稲の作付に支払われていた交付金を今年からいきなり半分にし四年後にはゼロにする、減反政策も止めてしまうなどと唐突に言い出したものだから農業現場では不安や困惑が広がっていたので、関心を持たれた方が多かったのでしょう。一九〇名収容可能な明治安田生命富山ビルのホールに一八〇人の方が集まりました。

パネリストは日本共産党の紙智子参議院議員、JA富山中央会の穴田甚朗会長、県農業会議の久保博副会長、農民運動全国連合会の吉川利明事務局次長でした。

日本共産党が主催するシンポジウムに農協中央会や農業会議(各市町村の農業委員会をまとめる県の組織)の代表にパネリストとして参加してもらったのは二度目になります。ずっと自民党の支持母体と思われてきた組織の方々なので、一度目の時は「こんな事が現実にあるのだろうか!?!」と不思議な気さえしたのですが、共通の思いがあれば党派、立場の壁を

超えて率直に話し合い協力しあえるところは大きい力を出し合おうという、言わば当たり前の事が当たり前に進むようになったのだな、と感慨ひとしおです。「農政改革」が現場の事情をよく考慮しないで拙速に打ち出されたものであり、現場から意見を上げていくことが大切だと穴田会長は強調しておられました。大規模農家を支援することは大切だが家族経営、兼業農家の果たす役割も大事で、多様な農業が営まれる政策にすべきとも語られました。

農業会議の久保副会長も日本の農業は家族経営が主体、農地を守るためにも農業委員会の役割は重要と述べられました。単純に効率だけを求めるやり方では農地、地域を守れないという考え方は同じなのだなど励まされた気がします。

「補助金がなくなるみたいだけど大門はどうしていいのだろう?」と先日農事座談会で問題提起がありました。知恵を出し合っただけでも多くの人が田んぼに関わり、みんなの力で地域の農地を守っていける方法を話し合わなければと思

いました。政府は農家が早く田んぼを明け渡して、地域外の企業等もどんどん進出できる仕組みを考えているようですけれども。